

ソウルに現地法人設立



日韓口定期貨客船を活用した初めての部材輸入を祝う小松電機産業の小松昭夫社長（左から3人目）ら＝境港市昭和町、境港国際旅客ターミナル

松江の小松電機産業

貨客船活用 部材を初輸入

シートシャッター製造などを手掛ける小松電機産業（松江市乃木福富町、小松昭夫社長）が、韓国・ソウルに現地法人と工場を設立した。工場は韓国をはじめ、近隣のアジアなどに販売する商品の生産拠点として6月中の稼働開始を予定。本格的な海外市場の開拓に乗り出す。

現地法人「小松 코리아」は、昨年5月に開設したソウル支社から順次、業務を移管。部材の調達や、新設した韓国工場で生産するシートシャッターの

海外展開に向けた販売拠点を位置付ける。

工場は2階建ての総面積約300平方メートル。高速シートシャッターの製造や施工、メンテナンス業務などを担い、小松コア全体で、本年度500台の生産販売を目指す。3日に境港に入港した

日韓口定期貨客船を初めて活用し、来月の販売開始を目指すシートシャッターの新製品「ハッピーゲート門番」の部材（40トンコンテナ1台分）を小松コアを通じ、韓国の仕入れ先から輸入。境港市の境港国際旅客ターミナルであった初荷式で小松社長は「ハッピーゲート門番を世界に広げたい」と抱負を述べた。